

里山・広葉樹林再生プロジェクト第2回推進連絡会議概要

1 開催日時及び場所

日時：令和3年9月10日（金）13：30～14：30

場所：林野庁木材産業課資料室・福島県農林水産部会議室（WEB会議形式による開催）

2 出席委員

委員名簿のとおり

3 会議の概要

林野庁及び福島県より議事の説明を行ったのちに意見交換。主な意見は以下のとおり。

（福島県森林組合連合会）

- ・原子力災害からの復興及び放射性物質対策の観点から、市町村主体による取組の必要性を訴えてきたところ。令和4年度予算概算要求に関連予算が盛り込まれたことに感謝するとともに、引き続き具体的な取組の実施に向けた検討をお願いしたい。
- ・しいたけ原木林再生の最終目標は、将来的に良質な原木の主産地としての地位を回復することであり、現存木の伐採・利用だけでなく、伐採後のぼう芽整理（成林木の本数調整）までを含めた検討が必要である。
- ・造林補助制度を活用したぼう芽整理の実施に当たっては、森林経営計画の策定が不可欠である。バイオマス燃料用に未利用材として有利な販売を行うには、伐採前に認定を受ける必要がある。
- ・チップ材よりも高価で取引される用材（建築・家具用の大径材）としての利用を促進するには、販売ルート等の流通の仕組みを整備する必要がある。
- ・ぼう芽枝の放射性物質濃度に関する科学的知見は、業界側の関心も高いので、継続的な調査・研究をお願いしたい。

（森林総合研究所）

- ・ぼう芽枝（当年枝）と同様に樹木の成長活動に欠かせない部位（注）である内樹皮を供試体とする調査は、ぼう芽更新木を損なうことなく調査を行うことができる点で意義がある。測定結果のバラツキが大きいことが科学的に考察する際の課題。

（注）成長部位は、放射性物質の影響が表れやすいと考えられている。

- ・植栽（植替え）やカリウム施肥を行った場合の放射性物質の低減度合等に関する知見を集積し、現場への支援に繋げたい。
- ・再生プランの実行にあたっては、ナラ枯れ被害の状況も勘案し施業区の高齢木を残さないといった配慮も必要である。

（林野庁）

- ・取組を進める上での課題のひとつに「担い手確保」の問題がある。これまで参画していなかったセクターも含めて担い手についても議論していきたい。

（福島県）

- ・しいたけ原木の主産地として復活するためには、放射性物質の影響が続く限り、原木林再生に向けた取組を継続していかねばならない。

（以上）

里山・広葉樹林再生プロジェクト連絡会議委員名簿

氏 名	現 職
たんじ としひろ 丹 治 俊 宏	福島県農林水産部次長（森林林業担当）
まつもと ひでき 松 本 秀 樹	福島県森林組合連合会代表理事専務
さと う まもる 佐 藤 守	福島県木材協同組合連合会専務理事
きのした ひとし 木 下 仁	林野庁森林整備部研究指導課長
つ か だ なおこ 塚 田 直 子	林野庁林政部経営課特用林産対策室長

（敬称略）

【オブザーバー】

氏 名	現 職
しのみや よしき 篠 宮 佳 樹	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 戦略研究部門 震災復興・放射性物質研究拠点長

（敬称略）